Green Sketch

グリーンスケッチ

No.14 WINTER 2002

特集

歴史と文化と緑のまちづくり
—下越地区緑花推進シンポジウム—

- 植物に親しむ
- 第18回 全国都市緑化いしかわフェア
- 花と緑のイベント情報
- 読者の広場
- 花と緑のお悩み相談室
- 緑花センター掲示板

表紙写真提供：高田進さん

財団法人 新潟県都市緑花センター

オオミスミソウ（弥彦村弥彦山麓）

歴史と文化と緑のまちづくり

―下越地区緑花推進シンポジウム―

(財)新潟県都市緑花センターでは、「緑と花のまちづくり」をテーマに県内を6地区に分け、それぞれの地域に合わせた緑花推進の手法を考える、緑花推進シンポジウムを開催しています。今年度は11月9日に下越地区で開催しました。その内容をご紹介します。

コーディネーター
特徴的なまちづくりを実践されている、村上市、新発田市、津川町の6つの団体にお集まりいただきましたが、各団体の活動のきっかけ、取組みについて紹介をお願いします。

● 山上　村上市は新潟県の中でも古い城下町で、まちのあちこちにその名残があり、とても趣のある雰囲気をつくりだしています。しかし、そこに住む人にとってはあたりまえの風景で、貴重で残すべきものだという意識が非常に薄かったわけです。そんな中、私達村上町屋商人(あきんど)会は町屋の価値と意識を高めるとともに町の活性化を目指す為、平成10年に発足しました。メンバーは地酒やお茶、和菓子、民具、鮭料理など伝統的なものを商っているお店22店舗で構成され、私も染物屋をやっています。

主な取組みは昔から伝わる人形や屏風を約60軒、町屋のお茶の間に展示し、それらを訪ね歩く「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」という2つのイベントを主催しています。普段は閑散としていた通りに、開催期間には5万人もの方が村上を訪れてくれるようになりました。なぜこのイベントがこんなにも人を惹きつけるのだろうと考えると、人形や屏風自体の魅力もありますが、普段入ることの出来ない余所様のお茶の間という生活空間に足を踏み入れることの意外性、そしてその家の人との触れ合い、コミュニケーションが評判をあげたのではないかと思っています。

昔ながらの建物の雰囲気をもつ町屋のお茶の間。

村上町屋商人(あきんど)会
副会長　山上　あづささん
城下町村上における町屋の価値認識の向上と商業の活性化のため、「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」を主催し大成功をおさめている。(3月・9月開催)またマップ『村上絵図』を発行し町屋をわかりやすく紹介している。

2つのイベントを通して経済効果はもちろんですが、町の文化に住民の方が誇りを持ち始めたことは大きな収穫だったと思います。

● 中野　平成2年文化庁と県の「伝統的建造物群保存対策調査」で、村上城跡をとりまく武家屋敷の町並みが全国的に見ても緑が多く歴史的風情があり貴重であると評価されました。なんとかこの町並みを残していかなければということで、歴史景観保全条例が制定され村上市の旧武家町において建物の外観と生垣に関する基準を設け、そのために必要となる工事費の一部を市が補助することになりました。その実行に当たり、町内の代表20人で町並保存推進協議会をつくり、市の方針を住民に伝えたり、住民の要望を聞いたりして町並の保存に努めてきたわけです。生垣はツゲ、サワラ、スギ、ヒバの4つの樹種を奨励しています。コンクリート塀から生垣に変えてもらえるよう住民にお願いし、統一の取れた町並みの推進を図っています。また各町内で生垣の刈込みや庭木の手入れなどの講習会を実施したり、広場や児童公園で垣根作りや植樹を行っています。

村上市歴史的景観審議会
会長　中野　緒一郎さん
村上城跡周辺の旧武家町における町並保存の為、住民代表として市に対し意見を述べることに始まり、町並推進事業が具現化してからは市と地区住民との間に入り、要望の取りまとめや、町並保存の理解に努めている。

● 若林　新発田市は数多くの文化財があります。毎年「歴史の陽だまり散歩」というタウンウォッチングを100人程度で行い、お寺やお墓めぐりの中で

それらの紹介をしています。よく知ってもらえば新発田の良さがわかり、愛着が沸いてくるのではと思っています。歴史を活かしたまちづくりを行うため、江戸時代に城の石垣を筏で運んだと言われる新発田川の流れを寺町に復元し、アヤメを植えたり、徳川家光からもらったと言われる樹齢350年の枝垂桜を種から増やし、街路樹として植えたいと考えております。また、先程の村上市さんの屏風まつり、私達も20人ほどで研修として見させていただきました。また、歴史景観保全条例も制定されて緑を増やす為の市の補助体制も整っていることを聞き、新発田市でも参考になるのではと思いました。

寺町・清水谷地区まちづくり協議会
会長　**若林　利次**さん

新発田に数多くの残されている文化財を地域遺産として守り育てると共にそれにふさわしい歴史的景観づくりを行なう為、先進地である秋田県角館町、川越市、飛騨古河町等の視察やまちづくり勉強会を開催。また「まちづくりニュース」を発行しまちづくり意識の啓発活動に取組んでいる。

布施　私達、住吉町花と緑の会では何となく淋しい町内に花を植えて明るくしようと商店街や地域の方と話し、昭和62年4月に発足しました。会員は町内の役員、老人クラブ、親子会の奥様方40人くらいではじめました。新発田市の緑花振興協会、商店街の方から援助資金をいただき、歩道沿いの花壇400mの世話をしています。花壇の土壌改良や水やりなど日々の作業は苦労もあり大変ですが、道行く人に「とてもきれいですね」と言われると来年もきれいな花を植えようという気持ちにさせてくれます。

住吉町花と緑の会
会長　**布施　千代栄**さん

住吉町内、新発田川沿いの歩道を花で明るく飾ろうと地域の人たちに呼びかけ、この会を設立。現在400mの歩道沿いにある花壇を維持管理している。また育てた花苗や球根を幼稚園、保育所や市役所などに提供し、緑ゆたかなまちづくりの意識向上に寄与している。

矢部　私達の活動のきっかけは少し変わっているかもしれません。14年前に衰退する旧市街地について商店街活性化のための青写真を描かないかと言うことで平成元年に商店街の若手を中心に旧本町再生クラブという会を作ったのがきっかけです。週2回のペースで勉強会を重ね、「津川町ルネッサンス」というまちづくり構想を発表したところ県のふるさと新潟の顔づくりモデル事業に認められ、助成を受けることになりました。話し合いの中で自分達の町の歴史性、文化性を大切にしたまちづくりをしようと考えていたので、もっと自分達の活動を町民の方に知ってもらおうと「とんぼ通信」というチラシを出す計画をたてました。その時に改名して津川とんぼの町並・自然と文化を守る会となりました。ちょうどその頃津川町でも町並景観を考えたまちづくり委員会を立ち上げ私達の仲間もメンバーとして活動してきました。津川町にも村上市さんのような歴史景観保全条例のようなものはありませんが、仲町町内では紳士協定で他の町内に先駆けてまちづくり協定をまとめました。その中に「樹木を大切にし四季の移ろいを感じられるようなまた小鳥のさえずりを楽しめるような植栽を心がけましょう」という文章が打ってあります。ただ実際にまちづくりを進めるには街路樹にしても商店街としてではなく仲町全体のまちづくり協議会でまとめ、隣接する町内との調整をしなければならないなど、様々な問題点に直面しているのが現状です。

津川とんぼの町並・自然と文化を守る会
事務局　**矢部　和男**さん

自分達の町の歴史、文化を大切にしたまちづくりを進めたいという考えから町並環境の視点で取組み、仲町で住民の手によるまちづくり協定を結ぶ。現在、県のふるさと新潟の顔づくりモデル事業の助成を受け、県道の改修について協議中。

軒からひさしを出しその下を通路にした廊下。地元では愛称で「とんぼ」と呼び、雪国ならではのまちなみを構成している。

清野　みなさんの活動をお聞きしていますと私共の活動は単純な話になってしまいますが、活動場所である今のニュータウンの状況から説明させていただきます。上ノ山ニュータウンは270世帯分の宅地を計画していますが、現在100世帯を越えた程度で2／3が空き地になっています。その空き地は草ぼうぼうで、自分達の住む町がこれでいいのか、できるだけのことはやってきれいなまちにしようと町内の役員で話し合い、活動を始めたのがきっかけです。活動内容は空き地から近くの道路に流れでた土砂をきれいにすること、街路樹の除草はみんなでやろうということです。またニュータウンの入り口に花壇をつくり、花の植付けを行っています。それから団地の中に2つ公園があるのですが、樹木が少なく寂しい公園なので木を植えたいということになりました。町に協力をお願いしたところ、一度にはできないので年次計画で桜とモミジの苗木をいただくことになりました。桜の植付けはすでに終わり、これからモミジを植えることになっています。

津川町上ノ山地区
区長　**清野　岩治**さん

自分達の住む町を明るく住みよい町にしようと、地域住民の手で清掃や花壇の植付け、公園の植樹などに取組む。まちづくりの周知徹底のため「お知らせ上ノ山」というニュースを発行。

●**高橋**　6団体の方からの話を伺って少し思ったことは、皆さん町の中にある歴史や文化を再認識してこれからのまちづくりをすすめています。緑にもそういった認識が必要なのではと感じました。よく「緑のまちづくり」と言われますが、単に緑をたくさん植えればそれでいいというものではないと思います。ちょっとした話なのですが、ガーデニングをはじめた方が玄関先に植えてあるモミジの花を今年初めて見たと言っていました。モミジは4～6月頃に赤い花を咲かせますが、玄関の前ですのできっと目には入っていたのだと思います。ただ記憶に残っていない。たまたまガーデニングをはじめて緑に関心を寄せる、認識をすることによってモミジの花に気づくわけです。「緑のまちづくり」も緑に関心を持つこと、心で緑を感じることで見えないものも見えてきて、緑豊かなまちづくりができるのではないかと考えます。

花と緑のアドバイザー
高橋　伸弘さん

●**コーディネーター**
みなさんにまちづくりや緑花活動の先進的な事例を紹介していただきましたが、まちづくりのなかの緑花という点で現在の状況や問題点はありませんか？

●**山上**　村上は城下町の中でも先程中野さんが活動されている武家町と、商人の町である町屋の2つに分かれるのですが、町屋特有の緑としては坪庭、中庭があります。町屋の家はうなぎの寝床のように間口が狭く奥行きが長い造りになっており、お隣同士もぴったりくっついています。そのため採光、光を取る為に坪庭をつくったのではと思います。大きな庭ではありませんが、小さいなりに素晴らしい坪庭をお持ちの家が何軒かあります。しかし住民の意識が低いのかあまり手入れがされていなかったり、家の建て替えでつぶしてしまう方もいらっしゃいます。そこで私達は坪庭の素晴らしさを再認識できる取り組みができればと考えています。人形様、屏風めぐりとあわせて坪庭の見学会を行い、緑に親しむきっかけをつくれればと考えています。

町屋の坪庭。　隣の家との空間はほとんどない。

●**高橋**　坪庭には平安時代からの京都の坪庭がありますが、村上の坪庭を目指していくべきだと思います。村上の坪庭には明かりとりとりともう1つ雪おろしの機能があったのではないかと考えます。町屋の形態では、雪がご近所に落ちてしまいますので、基本的には中庭や坪庭に落としていたのだと思います。今はだいぶ雪も減ってきてその機能がなくなりつつあるのかも知れません。機能がなくなると人の興味も薄れますので別の機能を持たせる、例えばお客様が見たり、入ったりできるようにすれば、その店の主人もきれいに手入れをします。村上の特色のある坪庭を目指せば、一過性のものではなく長くその緑が保たれていくのではないかと思います。

●**中野**　武家町では武家屋敷の雰囲気を残す為の運動が盛んですので住民の緑花意識は高いと思っています。また松やスギなどの昔の銘木、古木も非常に多く残されています。そういう雰囲気を基盤にして緑花を進めていきたいと考えています。

村上城跡周辺に残る武家屋敷。非公開のものもあわせ、11の武家屋敷が残っている。

●**若林**　先程津川町の矢部さんから街路樹の話が出ましたが、私どものまちづくり協議会でも街路樹について歴史と文化に合った樹種を検討してほしいという話がありました。諏訪神社付近の街路樹やお寺の中に、外国の木であるニセアカシアやハナミズキが植えられていてビックリしたことがありました。城下町新発田市として日本古来の樹木を街路樹にすればより雰囲気のある町になると思います。また今後の課題としては、まちづくりの推進の為に村上市さんのような行政のバックアップの充実が図られる事だと思います。

まちなみ保存地区である杉原地内の生垣。
4つの樹種で統一することによって、武家町の名にあった雰囲気が感じられる。

●**布施**　実際の緑花活動をやっているものとしては、一番の問題は会員の高齢化の問題です。人手のかかる作業の時は子供会や町内に協力していただいていますが、今後のこの会について、いつも考えているところです。町内は保育園、幼稚園、小・中学校もあり、育てた花を分けてあげると大変喜んでくれます。花を作っている姿を見てもら

って子供たちが少しでも花に興味を持ち、皆さんの役に立てればと頑張っているわけです。先日も中学校の先生と女子生徒さんがボランティアで協力してくれました。本当に感動して涙が出ました。今後もそんなかたちでずっと続けていければと思っております。

住吉町花と緑の会　花壇の植付け状況。

● **矢部**　ふるさと新潟の顔づくりモデル事業では街路樹に何を植えるかという問題で、モミジと桜の2種類を考えています。モミジは緑から赤や黄色に変わっていく過程を楽しめるということで津川の町にもあっていますし、シダレザクラは花見を楽しめるということで、そういった楽しみがあれば散り花や落ち葉の苦情もなく掃除もみんなでやれるのではと思っています。もうひとつ、最近堀に流れる水の量が細くなってきました。恐らく開発によって里山の保水力が弱くなってきたのではないかと考えています。そこで町民の森という形で美しい雑木の森をつくれないかと商店街の方と話したところ以外にも皆さん賛同してくれました。しかし、口で言うのは簡単ですが実際やるには難しく長期スパンで考えていく必要があります。そんな中で感じたことは、雑木の森というアイデア1つをとってみても、やはり最終的には行政のまちづくりにおける長期的なビジョンなしにはこういったものの構築は無理ではないかということです。そこに住民がどの様に参加するかは別として、やはりひとつの町という面的な整備をして魅力あるまちづくりを進める為にはどうしても行政の指導力が必要だと思います。

● **清野**　ニュータウンの緑花の課題は植樹などにおける費用の問題です。公園に桜の植栽をしましたが、樹木を植えるには土壌が悪く、改良するにもお金が必要になります。行政に相談しても財政が厳しい時代ですので簡単にはいかず苦労しているところです。

● **コーディネーター**　皆さんの課題をお聞きしまして、地域のまちづくりにおける緑花の課題は、行政が主体にやるべきか、民が主体にやるべきか、という二者択一の問題ではなく、民が力を出し官もそれに呼応して進めていくことが現時点での答えではないかと思います。村上市、新発田市は比較的官として積極的な対応をされていると思います。しかし行政の対応には非常に差があります。これから地方分権という時代になりますが、財政が厳しくなってくると市町村行政もなかなか前向きな方向に切り替えることが大変になります。そんな中で一歩、前進させるには民が積極的に提言と実行をしつつ、行政を動かすということがポイントになるのだろうと思います。

コーディネーター
(財)新潟県都市緑花センター
理事長　渡辺　瑋

● **高橋**　現代は車社会がゆえにスピード化され、体だけ動いて心がついていかないことがよくあります。先程のモミジの話ではありませんが、ただ緑を増やすだけではなかなか実感として人々に伝わらないわけです。だから、歩くペース、体と心が一緒に動くゆとりのある感覚で緑を取り入れたまちづくりをしていけたらと思います。なかなか難しいことですが、実は緑というのはそういうことが必要なのではないかと思います。

● **コーディネーター**　いろいろなご意見を聞かせていただき、このシンポジウムのまとめをさせていただきます。1つは、これからのまちづくりは地域の伝統文化を生かしていくという問題意識の中で、必ず緑や花が重要な役割を果たすのだということを、共通認識としていただいた点。2つめには「行政のバックアップの充実を」というご意見を受け、今後どういう形で市町村行政に伝え、厳しい財政の中で一歩前進させるかという戦略を緑花センターとしても問題意識を持ちたいと思います。その前提には行政が主体であるべきだという一方通行のものではなく民も一生懸命協力するというスタンスで充実させていくということがポイントになること。3つめには緑花ボランティアの高齢化という中で、そのパワーを一層発揮するには学校教育等との連携が非常に重要であるということの再確認をさせていただきました。
長時間に渡り貴重なご意見大変ありがとうございました。

緑花センターではまちなかで緑を増やすために活動する団体に対し助成制度を設けています。（5ページ参考）ぜひ御利用ください。このシンポジウムでいただいた意見を活かしながら緑と花のまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

身近な生活にも活躍するタケ・ササ

タケ、ササはイネ科の常緑樹で、世界中に分布しています。特に日本を含む東南アジアでは数多くの種類が自生し、古くから食料や工芸品の材料として生活に深いかかわりがありました。今回はそんなタケやササについて紹介します。

タケとササのちがい

タケ類は形態や特性から3つのグループに分けられます。

タケ……地下茎が長く、たけのこの生長とともに皮がすぐに剥がれます。

ササ……たけのこが生長しても皮が腐るまで落ちずに残ります。地下茎はタケと同じく長く伸びます。

バンブー…地下茎が短く、株立ちになりタケと同じように、たけのこの皮がすぐに剥がれます。

色々な場面で利用されるタケ類

食材として……

たけのこが食材の1つということは皆さんご存知のとおり。煮物や炒め物、たけのこご飯など色々なメニューで食卓に春を感じさせてくれます。またササの葉は新潟の名産である笹団子にも使われています。

冬囲いの資材として……

雪国新潟の風物詩でもある冬囲い。樹木を守る為の冬囲いの資材としてもタケが利用されています。

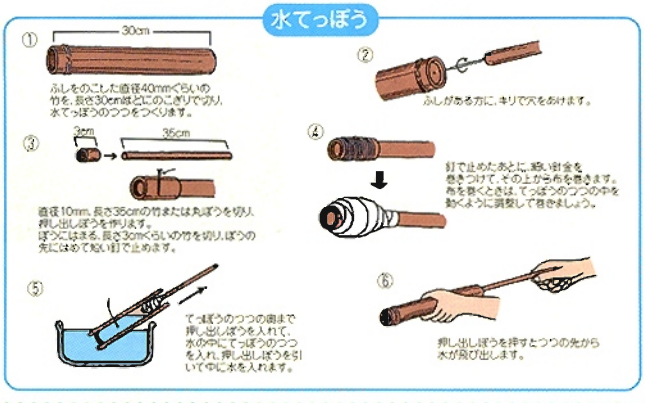
今注目されている、竹炭の効果

今、炭の色々な効果が注目されています。竹炭もその1つ。炭の多孔質な構造は液体や気体の吸着性に優れています。そのため、花瓶の中に炭を入れて水を浄化させ、花を長持ちさせたり、下駄箱や押し入れに置いて、湿気や臭いをとることもできます。また、炭を粉砕し粉炭にして、通気性、保水性のある土壌改良材として花壇や樹木の植え込みに利用されています。

工芸品の材料として……

竹馬や竹トンボ、水鉄砲など昔ながらの遊び道具として竹材がよく使われました。また笹の葉で笹舟を作って近くの川に流して遊んだものです。その他、タケを加工した花瓶や容器、竹篭など、和の雰囲気を演出する小物としても幅広く使われています。

タケやササを使って遊んでみよう



タケ、ササを植えてみよう

地下茎を伸ばすタケやササは、生長とともにどんどん広がり始末に負えなくなります。よく雑木林などでタケが侵入し、多様な自然であったところが一面竹やぶになってしまったということがよく聞かれます。タケやササを庭に植える場合でも、根が張りすぎて、他の庭木や花の生長を妨げる恐れがあるので、他の植込地に入り込まないよう、コンクリート枡を作るか、防根シートで囲うなどの処置が必要です。

植付けは肥沃な湿潤地が理想的です。植付けは3月か9月に行ないましょう。肥料が切れると茎の部分にあたる稈や葉の色が悪くなりたけのこも出なくなります。たけのこがでる前の3月、新葉が充実する6月、地下茎が養分を蓄える9月が施肥の適期です。密生した場合は古いタケを切ります。またササは放っておくと丈が高くなるので、3月頃、地際から刈り取りましょう。

●次号（4月発行）は簡単なトピアリーのつくり方について掲載する予定です。